時事新報は日本國中唯一の每日刊行新聞紙あり

時事新報

第千八百二十六號
明治廿一年二月六日　月曜日
壹丁亥十二月廿五日　(丁、未)
日出午前六時三十九分　入午後五時十二分
月出午後一時十二分　入午前零時十一時零分
朔現午前十一時三十八分
(西暦一千八百八十八年)

時事新報定價
時事新報ハ一年三百六十五日ニ休刊セズ其代價送料廣告料ハ左ノ如シ
一枚二錢〇一箇月前金五十錢〇三箇月前金一圓五十錢〇六箇月前金三圓
一箇年前金六圓
〇時事新報社ヨリ市内ニ郵便ニテ送達スルモノニ限リ本文定價ノ外ニ一箇月二十六錢ノ郵税料ヲ申受ク

時事新報廣告料前金

	一行二付	一行二付	一行二付	一行二付
	一日限	二日以上六日迄	七日以上十五日迄	十六日以上
二行廿四字詰	十錢	八錢	七錢二厘	六錢八厘
自一行至十行	九錢	七錢	六錢三厘	五錢九厘五毛
自十一行至廿行	八錢	六錢五厘	五錢八厘五毛	五錢八厘
五十一行以上				

時事新報

鐵道乘車切手の改良と盛む(前號の續き)

横濱本町　一商人

一組合切手　西洋諸國に於ては諸鐵道會社の線路交〻接續して數千百里に及ぶが故に據て乘客の便利と圖り何れの線路にも通用の切手を發行するを例とす此法は旅行者に取り各會社線路の變る每に一々切手を買直すの必要あれば誠に重實便利にして特に鐵道線路の交互錯綜するに從ひ諸會社の間に右の打合せある可きと大切なり數年前までは小生も別に日本に於て組合切手發行の要用を感せざりしに先般來横濱より奥羽筋に所用あつて出張の折柄品川までは官線鐵道の切手にて乘車したれども品川より日本鐵道會社の線路に乘替へ仙臺地方に赴くには又改めて切手を買はざる可らざるに依り恰も二重の手數と費したるは小事なるが如くなれども同時に組合切手の必要を感ずる所以なり小山の停車場に達せし頃左右より新線路の蜿蜒遠く走るを見て人に問へば一ハ兩毛一は水戸鐵道の線路にして工事落成も近きに在りと聞き更に倍々思へらく若し兩野常總の間に所用ありて今後鐵道旅行を爲すの時に早く組合切手の發行あらずとせれば僅々數十英里間の鐵道に少くも三度以上は切手買直しの面倒ある可し東北近輻の景況既に然り更に嶋西の地方には四日市、大坂、嶋西、山陽の諸鐵道陳續起て九州鐵道も之に連絡せんとするの今日あれば他所は兎も角も差當り先づ京濱間の官線鐵道と日本鐵道會社の線路との間に組合切手を發行し以て他の諸線路に其先例を示さんと我輩の希望して已まざる所なり

一車掌切手　發車時間に先つ少なく數十分時空しく停車場に跳掛けて欠伸し時を費すは文明人の車に非ず我々商賣社會の人にして平生汽車に乘慣れたる者は時計に時間を引ち較べ分時を爭ふて停車場に入るや否や列車に乘込ひ毎度次ぎ來國坪に於ては斯る者の便利を計り車掌切手を發行し縱令へ切手買拂所の時間に買復れざる場合ありとも尚ほ乘車を得るの都合なるべし英米工風と云ふ可し右は旅客に付ての便利なれども傍ら鐵道會社の銭嚢を考へれば人口の稠密なる地方に於て特更停車場を設くるにも足らず去迚之を廢止にすれば既傍人邦の不便たる場合には假令に小停車場樣の者を設け驛長其他の掛りも置かず車掌若くは巡視人より臨時切手を賣渡して旅客に乘車せしむるの方法は會社の爲めには費用少く、旅客の爲めには便利多き餘策なり日本國にも追々鐵道線路の網を引くの時節には適々停車場を置くに足らざる地方にも尚ほ此法を用ひて鐵道を利せしむるの手段大切なりと云はざる可らず論者或は日本客車は製造は米國と其趣を殊にするが故に車掌切手の發行も日本には行はる可らずとなすも若し此言の如く日本に於ては車掌に其事務を托す可らざる者ありとすれば巡視人なり切手領收人なり代て切手の發行を扱はしむるの方法い如何やうにも變通して工風し得可き其邊い掛念に足らざるあり

右の外尚西洋鐵道切手の種類を算へたらば其數枚擧に遑あらず例へば美室車切手の法の如きは旅客特別に美室を得んと欲する者の便利にい欠く可らざる仕組にして方今日本の上中等と稱する客車も車中に蒸汽筒若くは火爐の設けあるにも非ず又飲水淨手の供給も備いらず唯尋常の下等列車に異なる所は乘組の人員少くまて場席に餘裕あるの一事の外い寧ろ殺風景の待遇なるが如し勿論西洋諸國の汽車なるとて車中別段の興趣向いなき者なれども米國あるに於ては特に旅客の爲めに美室車と設け車中には火爐水桶淨手鉢之申もに及ばず圖室も備はり專ら旅客の快樂と旨とし其賃錢の如きも五十英里以内の旅行には特に一人五十錢又百英里以内に渉れば同く七十五錢と課するの法なるが故に旅行者は汽車中ふ在りて左まで不便不都合を感せずと云へり日本にても東京仙臺間など長距離を往復するに列車に美室車を設け同時に其切手を發行したらば我々旅行者の便利果して如何なる可きやと欲れを思ひ此に較べて大に所盛に念なき能はず總して物は其類を多くするに從ひ便利倍々増す者なれば鐵道乘車切手の法も今の如く單一無變化なる者と又其種類を多樣にして適宜旅客の求めを容易にするとの相違に於ては或は日にして論ず可らず左れば西洋諸國の鐵道に於ては或い世人の避暑遊覽を使にする爲め若くは博覽會、兵隊操練、演劇等の催しある每に回遊切手と發行し以て旅客を聚むるの工風を爲せは每々にて價格も尋常の往復切手よりは幾割を引下げ種々、時の嗜好に投じて利益を謀るい破地に遊びたる人々の實驗に於て明ならん日本に於ても本年の夏に至らば東北地方、鐵道交通の便利なる所にして上州には伊香保磯邊、野州には日光鹽原更に福嶋縣下に至りては飯澤近傍の温泉より轉して宮城に入れば青根其他著名の浴場山水明媚の地も亦多しと云へり左れば日本鐵道會社に於て以上各所の温泉廻りを爲さんと欲する人の爲めに回遊切手を發行したらば定めて旅行者も多かる可く現に小生の如きは今より豫約者の一名たると盛む者なり

右は全く我輩素人流の考へに於て乘車切手に此れ〳〵の種類もありさらば便利ならんと窃に想像と描きたる者あるが故に其所謂大方の笑と免れざる可きは覺悟なれども實際の工風は兎に角に一種にても二種にても多く切手の種類を殖し以て我々旅行者の便利を促されんと希望に堪へず因て一言を呈して貴紙の餘白を假らんと欲す、若し聽されなば幸甚なり

明治廿一年一月十五日　横濱一商人
時事新報記者先生足下　(完)

雜報

○露清大鐵道　露西亞よりの報に據れば セミパレチンスク(亞細亞露西亞)と上海間、クレイダと北京間、ヤアクダ(サイベリヤの都府)と北京間の三大鐵道敷設につき商議を開きたりとの說ありと倫敦一月十日發の報に見えたり

○高知通信　一月卅日發
板垣伯　は種崎町舊後樂館に學校を設置せんとて目下計畫中なるよし
壯士の差入物　昨廿九日東郡の壯士三十餘名が孰れも蕪菜二ツ株づゝ擔ぎ帶屋町山田平左衛門氏の宅を訪問せしに同氏は折柄不在との事もあ一同引返したる由聞く所に據れば今般保安條例に據り在監中なる東郡總代人へ何か差入を爲さんとの目論見にて右蕪菜を賣り金を得んとの事なりと
巡査の來縣　今般熊本縣より當縣へ雇ひ入になりし警部一名巡査八名は孰れも一昨日(廿八日)入港の汽船出雲丸にて來縣せり
尋常中學校敷地　山口縣人にして農學士藤村慶輔氏は先般來縣せしが一昨日(廿八日)高知尋常中學校敷地を命ぜられたり
浚渫工事　舊戸港浚渫工事は近日着手するを以て臨時建築係りにて其着手の件と常會委員の諮詢に附まとり
縣會　本縣通常縣會も明日を以て全く閉會するよし

○大津通信　一月廿八日發
滋賀郡縣會議員撰擇會　は豫報の如く本日午前十時廿分より開きしが高點者は(千六百六)堅田村辻平吾(千百七十六)松本村中山勘三(九百十八)大津谷崎龍造(七百五)膳所加藤元萬(六百八十一)大津高谷光雄(六百六十八)大津村田六之助(六百三十)坂本中村莊九郎(三百九十三)國分眞田武左衛門(同)膳所田中郁太郎の諸氏にして四名の當撰者を要するとなるとの右の内にて擧ぐる筈なるも尤も何者の所爲にや膳所加藤元萬、大津中山勘三、坂本中村莊五郎、堅田辻平吾の四名を撰擧すべしとの印刷物を匿名にて郵便に投じ(賣錢先拂も中には ありとか)撰擧權のある者へ配達したる趣なり又甲賀郡の同會は何か不都合の件ある趣にて當撰狀下付を見合すべしと縣廳より郡衙へ指示したり又坂田郡の當撰者は上田寅藏(再撰)日比久太郎(新)の二氏なりと云へり

新聞株主會　近江共同新聞社の株主は來二月四日大津の交道館に總會と開き改良實施の件々を議する趣きなり

○石巻通信　二月一日發
關田判事　は當石巻裁判所詰を命ぜられ去月廿六日着任せり
山田收税長　當宮城縣收税長にい去月廿六日巡廻として石巻へ着直ちに本縣稅檢査派出所へ立寄り同夜當地に一泊、翌廿七日にい該派出所の主幹荊地收税屬隨行にて桃生郡仙勝へ出張、直ちに歸石本郡役所へ立寄り尚ほ當地